

裏磐梯だより



磐梯朝日国立公園
裏磐梯ビジターセンター

No.79
2016年7月

小さな世界 ⑭

例によってなにやら不思議な造形の写真で始まりますが、今回のこの拡大写真は何となくお察しがつくでしょうか。そう、これはススキの葉のふちの拡大です。のこぎりの歯のようなとげが並んでいますが、これはイネ科の植物の葉によく見られるもので、とげの成分は何と二酸化ケイ素（シリカ）、つまりガラスの主成分です。一般にイネ科の植物は、土中のシリカ分を吸収し、強固な体細胞をつくると言います。葉のふちの細胞の一部が変形してガラス質の棘となるわけです。さてこのイネ科の植物たち、なぜこんな固いものを身に着けているのでしょうか。動物や昆虫などに食べられにくくしているのと、体を固く強くして密生し、多くの光を浴びるためらしいとのこと。暑いからと言って肌を出したままイネ科の植物の生える場所を通ると、皮膚まで切れてしまい、痛い思いをさせていただきます。やはり夏でもアウトドアは長袖長ズボンが安全なのですね。（「ガラスのできた棘」 2016年7月10日）

20 年 月 日
来館記念スタンプをどうぞ